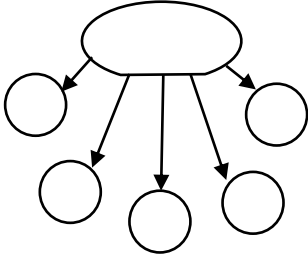


第6学年 国語科 単元名 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう「海の命」

1. 目標

- 作品に描かれている登場人物のつながりや心情を読み取りながら、主人公の生き方について自分の考えをもとうとしている。 【関心・意欲・態度】
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、人物の生き方について自分の考えをまとめることができる。 【読むこと】
- 人物の生き方についての考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 【読むこと】
- 物語の構成を理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

2. 指導計画（9時間扱い）

見通す	①・②時	学習課題を設定し、学習計画を立てる。	<活用した思考ツール>  【クラゲチャート】
取り組む	③～⑧時	1～4場面での「太一」と「父」「与吉じいさ」「母」「瀬の主」の関係を読み取り、自分の考えを交流する。「瀬の主」と対峙した時の「太一」の心情を読み取る。5・6場面での登場人物との関わりから、「太一」の生き方について読み取る。 ←学び合いの例	
振り返る	⑨時	登場人物の生き方や考え方を自分の生き方と照らし合わせてまとめる。交流し、自分の考えを広め、深め合う。	

3. 第⑦時について

- 目標 「瀬の主」と対峙した時の「太一」の心情を読み取ることができる。 【読むこと】

見通す	活動①	前時の学習を想起する。
取り組む	活動②	本時の課題を知り、学習の見通しをもつ。 今日の課題「なぜ「太一」は「瀬の主」をとらなかったのだろうか。」
	活動③	「海の命」を音読する。
	活動④	前時で書いた自分の考えをグループで交流する。
	活動⑤	全体で交流する。（学級全体）
	活動⑥	本時のまとめをする。 ㊦ 太一が「瀬の主」をとらなかったのは、 <ul style="list-style-type: none"> ・千びきに一びきでよいという、与吉じいさの教えを守ったから。 ・父のように、海の命を大切にされたから。 ・母に心配をかけたくなかったから。 ・瀬の主を他の魚と同じ「海の命」と思ったから。
振り返る	活動⑦	本時の振り返りをし、次時の活動について知る。

とると海がかわってしまふ。

おとうは海を大切にしていた。

母を悲しませたくない。

父のかたきでも、1つの命。

4. 学び合いの例について

【活動④～⑥】：クラゲチャート・相関図・Xチャートの活用
(手だて)

①自分の考えをわかりやすくまとめるための手立て

活動④においてクラゲチャートを活用することで、自分の考えを見える化し、多面的に考えたり、仲間分けしたりすることができるようにした。また、児童のワークシートには付箋も用いて、考えを移動させながらまとめさせることで、自分の考えを深めることができるようにした。

交流の際には、前時までにまとめた人物相関図も確認しながら活動することで、登場人物の相互関係や心情の変化にも着目させ根拠を明確にしながら交流することができるようにした。

②友達の考えを整理するための手立て

活動⑥の全体の交流では、Xチャートを活用することで、主人公の行動背景には、多くの人物との関わりがあったことを視覚的に気付くことができるようにした。

また、他のグループとの共通点や相違点に気付き、自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができるようにした。

(留意点)

- ・思考ツールを活用することで、登場人物の言動や心情を整理し、人間の成長には周囲の人々や環境が大きく関わっていることを捉えさせたかった。このように、目的をもって思考ツールを使用させていくことが大切である。

【活動④・⑤】：学習形態の工夫（グループ交流）

(手だて)

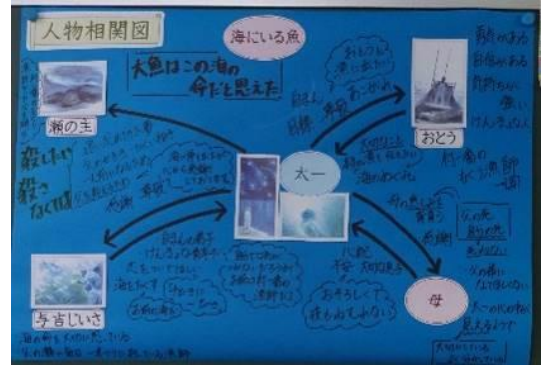
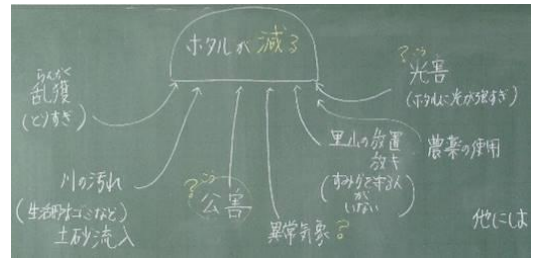
①児童の思考の流れにそった学習形態の工夫

活動④のグループの交流は、自分の考えを広げたり深めたりすることが目的の活動であることを伝えて活動に取り組みさせた。そして、発表だけではなく、友達の意見に積極的に質問をすることで、目的を達成できるようにした。

また、グループ内で一つの考えにまとめなくてよいことを伝え、活発な意見交換が行えるようにした。

(留意点)

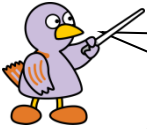
- ・学習内容より、児童が考えを伝え合い意見が広がるようなグループ形態を意図的に作る大切である。



小学校第6学年 国語科

単元名 登場人物の関係をとらえ、 人物の生き方について話し合おう 「海の命」

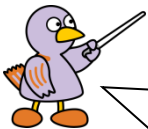
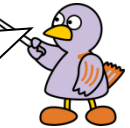
取組のワンポイントアドバイス



こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

目的に応じた思考ツールを活用することで、その時間の目標を達成することができるようにしました。「人物相関図」「クラゲチャート」「Xチャート」の3つの思考ツールを使用しましたが、6年生という発達段階にあるからこそ、児童が混乱せずに用いることができたと思います。学年によって、使用する思考ツールを厳選することが大切だと思います。

児童はこれまでに、登場人物の相互関係を考え「人物相関図」に整理して、人物同士の関わりを捉える学習に、繰り返し取り組んできています。また、「クラゲチャート」や「Xチャート」についても、様々な教科で活用してきました。何度も繰り返し使用することで、児童自身が各ツールの特性を理解して活用することができるようになります。



本校のアンケートより、6年生の児童は「みんなと話し合うことは楽しい」と答えた児童が7割を超えました。そこで、友達との交流活動をより充実させるために、自分の考えをまとめる一人学習の時間を十分に確保しました。自分の考えをしっかりとつとめて、友達の見解との共通点や相違点を分かりやすくすることができ、交流の活性化につなげることができました。

交流活動の前に、話し手・聞き手のポイントや交流の意図を示しました。「何を話せばよいか」「何のための交流なのか」という児童の目的意識を明確にすることで、自分の考えが深まったり、変化したりすることのおもしろさに気付くことができるようにしました。目的をもたせて活動に取り組ませることが大切です。

